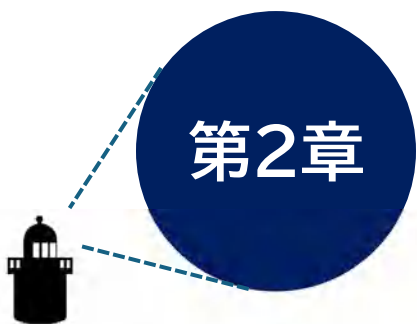




地域福祉計画からみた本市の課題

令和2年度からスタートした「第3次鳥羽市地域福祉計画」において、「人とひとがつながり 支えあう 温かいまち 鳥羽」を基本理念に、重点プログラムと4つの基本目標を掲げ地域福祉の推進に取り組んできました。本章では、基本目標ごとに、アンケート調査結果やヒアリング調査結果を踏まえて、現状をまとめています。

前回計画の基本目標概要

前回計画 基本目標1

地域を支える人づくり

- 学校教育や生涯学習と連携した福祉教育の推進
- 身近な場での学習機会の充実
- 地域福祉を担う新たな人材の発掘と養成



前回計画 基本目標2

支えあいの地域づくり

- 交流機会の充実
- 地域活動・住民活動の活性化
- 身近な地域交流拠点の充実
- 児童・若者に対する支援
- チャレンジできる社会づくり



前回計画 基本目標3

地域福祉の輪を広げるネットワークづくり

- 情報提供の充実
- 相談支援体制の充実
- 多様な地域課題を解決するための仕組みづくり
- 住民や関係機関、行政等の連携・協働の仕組みづくり



前回計画 基本目標4

安心・安全な地域づくり

- 身近な地域での見守り活動の推進
- 災害時に備えた支援体制の充実
- 保健・医療・福祉サービスの充実
- 権利を守る取り組みの推進
- 住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり



1 地域を支える人づくり

(1) 市への愛着と誇りはまちづくりの活力

まちづくりをするうえで、市民のシビックプライド（愛着と誇り）の醸成が重要となります。本市への愛着を感じている人は「少し愛着を感じている」を含めると8割以上となっています。愛着を感じている人は、定住意向があり、地域でのつながりを望む傾向にあります。多くの人は愛着があると答えた一方で、出身が市内と市外で愛着の傾向などに違いがみられます。

(2) 地域に密着する中間支援組織の認知度と担い手

民生委員・児童委員や地域福祉推進員については、認知度に課題があり、特になり手が不足している状況です。特に若い層が減っており、活動しやすい仕組みづくりが必要です。

(3) ボランティア活動等への参加

地域活動やボランティア活動については、小学校、中学校での参加があるものの、その後の継続的な参加にはつなげられていないため、成果がみえにくい課題もあります。

人口減少から地域活動が衰退すれば、地域で様々な活動に挑戦できる機会が失われる可能性があるため、現状の取組を維持し、状況に応じた実施方法の変化が求められています。

■福祉体験教室の様子（e-スポーツ）



■車いすバスケットボール体験の様子



2 支えあいの地域づくり

(1) 地域のつながりは地区により違いがある

近所の人との付き合いは「会ったときには立ち話をする」「困ったときにはお互いに助けあう」が多くなっていることから、地域でのつながりが強いことがわかります。一方で、地区によっては「あいさつをする程度」が高くなっていることから、鳥羽市全体で地域のつながりが強いと言いきれない結果もあります。

(2) 変化する地域活動への参加要件

地域活動については、「地域の清掃活動（草むしり、寺社掃除、道路清掃等）」の参加が多くなっている一方、「地域のまつり」「町内会・自治会の集会」「防災活動（防災訓練・見回りなど）」で過去に参加していた人については、参加していない理由として、「仕事や家事で忙しいから」「関わりが少なく参加しづらい雰囲気であるから」が多くなっています。ヒアリング調査でも、地域のまつりやイベントが少なくなっているといった意見もあり、住む地域に誇りを持つためにも地域の人が自ら地域活動を行っていくことが重要となっていることがわかります。地域活動に参加するための要件として、「自分にあった時間と内容の活動であること」「集団ではなく個人が自分のペースでできること」が多くなっていることから、個人の状況に応じて参加できる新たな仕組みづくりが求められています。

(3) 地域共生社会の実現に向けて

地域共生社会の実現に向けて、就労支援などについては、鳥羽市独自の観光業や水産業を活かした取組の充実を図るため、分野を超えた団体間での意見交換の場や連携が必要となっています。

また、地域活動や地域の資源を「見える化」している「まちのカルテ」の取組などを推進していますが、「まちのカルテ」の認知度が低いなど課題があります。住民と行政との望ましい関係については、「住民も行政も協力し合い、ともに取り組むのがよい」となっており、こうした取組の認知度を上げるための情報発信が重要となります。

■サロンの様子



■まちのカルテ



3 地域福祉の輪を広げるネットワークづくり

(1) 町内会・自治会の存在感と組織維持

地域についての認識については、「町内会・自治会」が多く、地区別にみても「町内会・自治会」が高くなっており、地域における町内会・自治会の存在が大きいことがわかります。その中で、町内会・自治会については、高齢化を要因として会員の減少が課題となっており、地域によっては、役員のなり手不足等から統合などの話も出ていることから、地域における存在が大きい中で活動が縮小すると、今後、地域での中心的な役割を担うことが難しくなる可能性があります。

(2) 地域で支え合える仕組みづくり

生活困窮者支援については、7割以上の方が地域で支える必要性を感じているほか、相談窓口での専門的な支援以外にも、「孤立しないよう住民による居場所づくり」が必要であると考え方が多くなっています。加えて、市民が取り組める地域の課題では「高齢者の生活支援・社会参加」「防災対策」「孤立しがちな人の居場所づくり」が高くなっていることから、様々な視点をもつ地域づくりの支援が求められています。

(3) 必要な人に必要な情報が届く手法の検討

誰もが住み慣れた地域で安心して生活していくために必要なことについては、「福祉や保健に関する情報提供を充実させる」「1か所で何でも相談や手続きができる体制を整備し、容易に行えるようにする」が多くなっていることから、情報発信の強化や相談窓口が集約された保健福祉センターひだまりのより一層の周知などが求められています。

地域活動などの情報の入手先としては、「広報とば」が多くなっており、情報発信の媒体として重要な役割を担っていることがわかります。年代によって、必要とする情報の分野に違いがでており、ニーズに応じた情報発信をさらに強化することが求められています。

■子どもの学習支援「yell」



鳥羽市委託事業
子どもの学習支援「yell」

学習支援ボランティア募集

鳥羽市社会福祉協議会では学習支援ボランティアを募集しています。
個別指導で学習支援をしてみませんか。
少しでも興味のある方は、ぜひ問い合わせください。

鳥羽市社会福祉協議会 ☎1188

対象者 大学生・高校生・元職員・その他一般のかたも歓迎

活動時間 毎週1回（火曜日）午後4時～8時
※奇数月の第3週のみ水曜日

活動内容 ※上記の時間等のうち都合の良い時間帯
1回2,000円程度（交通費を含む）
（市外からの参加は1回3,000円程度）
ボランティア行事用保険を適用します。

申し込み 電話・ファクスまたはメールで申し込みください。

申し込み・問い合わせ先
鳥羽市社会福祉協議会
暮らし相談支援センターとば 子どもの学習支援事業担当（瀬田・上野）
☎1188 ☎1117 ✉soumu@toba-shakyo.or.jp
月曜～土曜（祝日を除く）午前8時30分～午後5時

■鳥羽市社会福祉協議会公式 Facebook



鳥羽
キラめき
日記

鳥羽キラめき日記（鳥羽市社会福祉協議会）
「もしね！」218件・フォロワー269人

4 安心・安全な地域づくり

（１）高齢化の進行を実感する市民の不安

日々の生活における悩みや不安については、「自分や家族の老後のこと」「自分や家族の健康のこと」「介護の問題」が多くなっています。年代別では、50 歳代以下で「仕事のこと」が多くなっているほか、30 歳代では「子育てに関すること」も高くなっています。また、60 歳代では「家屋や土地の管理のこと」が高くなっており、ヒアリング調査でも、進学を機に鳥羽市を出る人が戻ってこずに、空き家になる問題が意見としてありました。

（２）買い物・移動に関する支援の確立

買い物支援、移動に関する支援を求める声は多くなっています。地域で手助けできると考えられることについても、「買い物や近くまでのちょっとした外出などの付き添い・手伝い」と答える人もいる中で、状況に応じて、地域で支えあう仕組みづくりがさらに求められています。

（３）災害に備えた日々のつながり

災害時の対応については、避難場所を知っている人が多くなっている一方で、自主防災組織や避難訓練など、今後取組の充実を図る必要があります。「避難行動要支援者名簿」（要援護者台帳）の認知度は低い中で、高齢者世帯や障がいのある人など支援が必要な人の避難等の手助けができるかについてみると、できる人とできない人はそれぞれ約３割となっています。災害時でも平時でも自分に近い人から助けるのではないかという意見もあり、平時からつながり・関係性を構築しておくことが重要と考えられます。

■防災デイキャンプ（障害者互助会事業）



■ほっとスマイルサービス

